

講義名	教育原理【教職科目】			授業形態	
担当教員	田邊 良祐	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 1時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生

主題と概要

本授業では、「教育における自由と平等」「教育内容(カリキュラム)」「教育制度(学習権を中心とした教育権)」「西洋・日本教育史」について取り扱い、教育学及び教育史・教育思想の基礎理論・原理の理解を目指す。
 授業を通して、「教育」に関する様々な問題、課題、悩みを問いに置き換え、その問いに対して、これまで「教育学」の文脈で語られてきた知見をもとに答えていく。
 本授業は、受講者で議論し教育に関する問題、課題、悩みを抽出し、それらを解決するための問いをたて、教育の思想、歴史、実践、研究を掘り起こしながら、でたてた問いに受講学生が答え、「納得解」を導く、という授業方法で展開する。
 自分たちで抽出した「悩み」を問いに置き換え、その問いに対して自分の考えとその理由を20分～30分のプレゼンにまとめ発表する。プレゼンをもとに議論を進め、受講学生内での「納得解」を導く。

到達目標

目標1 発達、成長、陶冶(人間形成)等、教育の基本的な概念及び教育の成立条件を理解し、説明することができる。
 目標2 日本及び西洋の教育の歴史に関する基本的な知識を身に付けるとともに、現代の教育との関連を理解し、説明することができる。
 目標3 基盤となる教育制度原理を理解し、学校教育や教師、教育実践とどのような関係性があるか説明することができる。

提出課題

ポートフォリオ: 授業の予習・復習のためにポートフォリオを作成し、毎授業提出して添削を行う。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

審査資料: 学表に対してコメントし、事実の補足事項があれば適宜行う。
 毎授業提出するポートフォリオは在籍し、各学生のコメントに対して教員がコメントを付して返却する。

評価の基準

・ポートフォリオ 60% (4点×15回)
 ・教育課題に対する解決方法のプレゼンテーション 40% (20点×2回)

履修にあたっての注意・助言他

初回授業では、授業の進め方、授業の発表担当回(自2回以上を予定)を決めるガイダンスを実施する。初回授業に参加できない場合は、担当をこちらで機械的に割り振る。なお、受講学生の興味関心を踏まえ、授業内容を構成する「問い」は授業開始後変更することができる。
 授業時間内には発表担当者がプレゼンすること以外に、受講学生が情報を集め、整理し、グループでまとめ共有するという作業を行う。その際、PCやタブレット等を用いて行う方が効率が良いと思われるので、スマートフォン以外にPCまたはタブレットを持っている学生は持参することを求める。

教科書

.使用しない。

参考図書

.なし。

その他

授業計画

第1回: ガイダンス、担当者の割り振りに向けた説明
 第2回: 「教育」に関連する問題・課題・悩みの抽出
 第3回: 「教育」に関連する問題・課題・悩みを解決するための「問い」の立案
 第4回: 仮の問い(子どもの概念) 「子どもとは何か?」「大人」とは何か?」「『子ども』という概念を発見したのはだれか?」
 第5回: 仮の問い(義務教育) 「義務教育とはなにか?」「誰にどんな義務を課しているのか?」「なぜ『義務』を課するのか?」
 第6回: 仮の問い(いじめ) 「いじめとは何か?」「いじめの何がいけないのか?」
 第7回: 仮の問い(不登校) 「不登校とは何か?」「なぜ学校に行かないのか?」「不登校の何が問題なのか?(本当に問題なのか?)」
 第8回: 仮の問い(体罰) 「体罰とは何か?」「なぜ体罰はいけないのか?」「いつから体罰が問題になったのか?」
 第9回: 仮の問い(日本の教育の特徴) 「日本の学校教育は諸外国に比べてどのような特徴があるのか?」
 第10回: 仮の問い(新しい国の子供の教育) 「新しい国ではどのような学校教育が実施されているか?」「自分たちの国と同じ教育を受けるにはどうすればいいか?」
 第11回: 仮の問い(人材育成) 「人材育成の目的は何か?」「会社のためになるとしたらどういう理由があるのか?」「会社のためにならないとしたらどういう理由があるのか?」
 第12回: 仮の問い(オンライン授業) 「オンライン授業は対面授業と比べてどのような教育効果の違いがあるのか?」「オンライン授業になると集中力が低下してしまうのはなぜか?」
 第13回: 仮の問い(コミュニケーション) 「コミュニケーション不足によりどのような弊害があるか?」「スマホを持つのは何故からがいいか?」
 第14回: 仮の問い(学校教育) 「学校で教えることは誰がどのように決めているのか?」「なぜ『教科』を学習しなければならないのか?」「『教科』を学ぶ意義は何か?」
 第15回: 仮の問い(教育格差) 「教育格差」とは具体的にどのような格差か?」「裕福な家庭の子どもは『良い教育』を受けることができるのか?」「『良い教育』とは何か?

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア: PBL(課題解決型学習)	イ: 反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ: ディスカッション、ディベート	エ: グループワーク
オ: プレゼンテーション	カ: 実習、フィールドワーク
キ: その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

プレゼンテーションで使用する授業資料の作成、次回で取り扱う内容に関連する単語帳等の予習を2時間程度求める。
 ポートフォリオへ授業内容の振り返りの記録、授業内容に関連したミニテストの問題・解答解説の作成等の復習を2時間程度求める。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

商学部では共通して「マーケティング、ブランド戦略、小売業界、流通に関する問題探索、課題提案ができる」資質能力の育成を目指している。
 高等学校専修科は「ビジネスで必要となる実践的な働く力を身に付ける」ことが目的である。そのような資質能力を生徒に育成する教員となるべく、「問題探索」「課題提案」を随時授業を通して行い、DPで示す資質能力の育成を目指す。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

授業資料の共有等をクラウドで行う場合がある。
 受講学生は、可能な限りスマートフォン、タブレット、ラップトップなどの端末を授業時に持参すること。

実務経験の有無及び活用

備考

本授業は、教員の免許状(高等学校1種免許・商業科)取得のための必修科目である。